

(革マル派新謀略論)

「水本謀略」の破産が「反ファッショ」へのな備し移行

セクト路線
の本質



暴力によるセクト支配
と路線的右翼化

「動労革マル」または「革マル動労」という言い方が今日では労働運動の中で一種常識となっています。

「本部」反動分子は、このことを「いわれなき誹謗中傷」であり、「謀略」であると規定しています。この「謀略」または「誹謗中傷」であるということについて、全国の動労組合員と「本部」反動分子のとりえ方は、はたして同じでしょうか。大きく違っていることを、われわれは確信をもっていることができます。

今日の「片肺執行部」に至る過程の中で、全国の職場・生産点であるいは機関の中で反動分子は何をやってきたのでしょうか。「イデオロ」と称する暴力をも含めた集団ツルシ上げが公然と行われる状態が青年部の中で日常化し、それが第三四回津山暴力大会では全国大会においてまで全面開化するという状況になったことは全ての動労組合員がよく知っている通りです。

一方、第三三回水大会上で「単なる賛助団体」として確認された「水本謀略」を暴力を背景とするセクト的組織運営で動労の基本路線にまで押しあげ、労働組合が真に取り組むべき課題については片手間的にしか取り組まず、「貨物安定宣言」などという屈服路線をとることをもって当局の武装親衛隊として純化してきたことも周知の通りです。

闘う全国潮流への恐怖Ⅱ動労千葉排除

もちろん、このようなセクトによる動労の組織私物化、暴力と規約・規則無視によるそれと路線的右翼化を阻止すべく全国の良心的・戦闘的動労組合員の闘いも、津山大会で「本部」反動分子のファッショ的組織運営と屈服路線に反対する修正

日刊
動労千葉

80.10.5

全口版
No. 68

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄電)二五八〇九・公電 〇三三二二七二〇七

第36回全国大会報告(その5)

全国の動労組合員のみなさん！われわれは第三六回全国大会における「本部」反動分子の財政的・組織的・路線的破産の実態を明らかにし、このデタラメな権力・当局への屈服と職場を売りわたすことを前提とした「本部」反動分子には、職場を守ることはできないことを明らかにしてきました。このわれわれの主張の正しさは、今日、五五・一〇ダイ改において、東京管内では組合の了解のもとに乗務員運用合理化実施を前提とした「暫定ダイヤ」が決定され、生産点で大きく怒りが湧き上っているという事実によっても鮮明です。

動議に、全代議員の約四割が賛成するというところまで高揚しました。

これにセクト的立場から恐怖した反動分子は、その本性である暴力を全面開化して大会を乗り切り、この戦闘的全国潮流を、十年來の暴力に屈せず、最も基本的な立場から「安定宣言」「水本謀略」「三里塚敵対」に反対し、糾弾してきた動労千葉を排除することによって封殺する手段に出たのです。

「きめられたことを守らない」などというのは口実にすぎません。

この間、動労の中で「きめられたこと」を歪曲し、最も守らなかったのが「本部」反動分子であるということは誰でも知っています。

動労の戦闘的伝統を再生しよう！

このように、暴力によるセクト支配と、革マル派と「動労」しか主張しない右翼的路線を動労の方針とし、革マル派に反対する党派を労働組合の側から「敵対党派」と規定づけるやり方を世間では「動労革マル」とか「革マル動労」と言っているのです。

第三六回全国大会で「本部」反動分子は「政治部の独立」を基軸に、「水本謀略」反ファッショ「統一戦線」という「革マル動労」の基本路線に対して、全国の戦闘的・良心的仲間には反動分子の革マル路線による「千葉対策」「安定宣言」「三里塚」「水本」「財政」等の破産を鋭く突き出す闘いを貫徹しています。

全国の動労組合員のみなさん！「革マル動労」から脱却し、真の動労の戦闘的伝統を再生するために、共に奮闘しようではありませんか。